

2 学期始業式 校長講話

1 か月という、例年より長い夏休みが終わり 2 学期が始まります。なぜ夏休みが長くなったかは 1 学期終業式にもお話ししました。自分と向き合い、自分の引き出しを 1 つでも増やせるような体験ができた充実した夏休みになったでしょうか。

私も皆さんにばかり推し進めるではなく、この年齢でも勉強する姿勢を持ち続けたいと、自分の引き出しを増やすため、実際に目で見て肌で感じる体験をと、東京の国立西洋美術館と、生まれて初めての「歌舞伎鑑賞」に行ってきました。

きっかけは、直木賞候補になった、原田マハさんの「美しき愚か者たちのタブロー」という 1 冊の本との出会いです。この本の舞台になっているのが、第二次世界大戦前後に、「いつか日本に美術館をつくる」「日本の若者たちが実際に西洋美術に生で触れることのできる場所を提供したい」と、絵画収集に目覚めた実業家の松方幸次郎と 4 人の男性たちの物語です。現在の川崎重工社長であった松方幸次郎は晩年、「日本の若者のために」と、私財の使い道を海外での美術品収集にあて、その 1 万点以上の収集品が「松方コレクション」と呼ばれており、ちょうど 9 月まで代表作展が西洋美術館で開催されているところです。モネの「睡蓮」、ゴッホの「アルルの寝室」ロダンの「考える人」などがコレクションの代表作です。第二次世界大戦をはさんでそのコレクションはフランス政府に没収されてしまいましたが何とか松方コレクションを取り戻そうと吉田茂首相ほか男たちが奔走する姿がこの本に描かれています。なぜ松方幸次郎がこれらの美術品に惹かれたのか、本に描かれていたその答えが、私の目の前に現れ、本物を実際にこの目で見る・聞く・体感するという身震いするような感覚が体の奥底から沸き上がる、素晴らしい時間を過ごすことができました。

さて、夏休み中、気になったニュースが 2 件ありましたのでちょっと紹介します。皆さんならどう考えるか、そんなつもりで耳を傾けてください。

7 月 27 日の朝日新聞デジタルニュースでの記事です。「夏休みに痩せる子供たちへ フードバンクで広がる支援」という見出しです。【東京、静岡、京都などでは夏休みに子供に無償で食料品を届ける取り組みをしている。給食がない夏休みが明けると、痩せて学校に戻る子供たちが少なからずいる。小 4 の子供のいるある 30 代女性は、フードバンク狛江から食糧支援を受けた。1 人あたり 3 キロの食糧が段ボールで届く。「お米をもらえればその分おかずに回せ、バリエーションも増えた。本当に助かる」と話す。1 人親、月 15 万円の収入。夏休みは給食がないので生活がキツイ。国会では 5 月に「食品ロス削減推進法」が成立し、フードバンクとの連携が促された。食べられない子供がいる反面、捨てられる食品がある・・・こういったニュースでした。

夏休み明けに痩せる子供の存在は 2009 年「子供の貧困白書」で取り上げられ、夏休み明けに学校にきた子供から、「先生、何か食べ物ない？」と言われた小学校教諭からの相談がきっかけでフードバンク山梨が 2015 年から始めた取り組みです。

2 つ目

8 月 12 日のあるフェイスブックの投稿記事からです。信州高校生プロジェクト「モザイク」のメ

ンバーが裾花川ウォーキングロードとしてゴミ拾いを兼ねた行動を企画し、長野市内3校の高校生メンバーを中心に松本や諏訪からも高校生が駆け付け、近隣の有志の方々も交えて実施された様子でした。道路から投げ込まれたものか、道沿いにはかなりのごみが散乱しており、2, 4キロを2グループに分かれて拾い歩いたようですがゴミ拾いに限界を感じたということでした。高校生の声は、「企業と連携してごみを減らす方策を考えられないか」「買い物時に、『レジ袋使いますか?』の声掛けだけでも違うのでは」といった感想や、発案が活発に出たようです。また、どうしてポイ捨てするのか、どんな感情でゴミを捨てるのか本当に理解できない といった怒りの声もあがっていました。

夏休み明け痩せる子供たち、ゴミ拾いウォーキングの2件についての記事を紹介しました。

皆さんは、何を感じたでしょうか。

私にも何かできることはないのか。高校生のみんなにも、みんなだからこそできることがあるんじゃないか。

皆さんに与えられた「高校生」という時間は、たった3年間。

皆さんにお願いしたいこと、『自分にできること、今やること、やるべきことは何か』を、ことあるごとに考える2学期にしてほしい」ということです。

2学期はたくさんの行事に加えて、3連休など、少しゆとりをもった自分の時間も見つけられるかもしれません。ぜひ、自分のできること・やるべきことを考えられる2学期にしてほしいと願います。